

# 忘れない、あのときの思いと備える大切さ

## 1 あのとき、起きたこと

あの日、盛岡は最大震度5強を観測。発生直後は突き上げるような振動で電柱は大きく揺れ、市内全域で停電が起り、一部地域では断水が発生。市が開設した避難施設には、不安な表情を浮かべた市民が次々と集まり、64施設に最大約4500人が避難。電話もかかりづらい状況が続く、家族や友人と連絡が取れない人も。停電・断水ともに復旧まで最大4日間を要した地区もありました。さらに、4月7日には大きな余震により再び停電と断水が発生するなど、多くの市民が落ち着かない日々を過ごしました。

## 2 体験者が語るあのとき



（株）ベルジョイス  
営業推進部ゼネラルマネージャー 佐々木 信正さん

大きな揺れで各店舗とも商品が散乱したため、店舗を安全な状態に戻すまで一時閉店。まずは一刻も早く店を開け、お客さまに商品をお届けすることを第一に考え行動しました。店舗は順次営業を再開したのですが、一番困ったのが商品を運ぶトラックのガソリンの確保です。当社の物流センターに物はあっても届ける術がない。提携店のおかげでなんとか乗り切りましたが、ガソリンの大切さを思い知りました。商品は、物流センターにあった在庫のほか、全国の取引先の皆さまなどが遠方から運んできてくれ、早い段階で通常営業の態勢をとれました。連日、どの店舗も開店前から行列ができ、牛乳や豆腐などの日持ちしない物はあっという間に売り切れ。多くの人に行きわたるよう個数制限をかけながら販売しました。

震災前から避難訓練は行っていましたが、震災後に大規模災害を想定した防災訓練も始めました。災害時でも安定してお客さまに商品をお届けられるよう、あのときの体験を教訓として営業を続けていきます。

## 自主防災のススメ

### 起こりうる危機に自分で対応

#### ● 備蓄品の一例

- 飲料水
- 非常食
- 粉ミルク・哺乳瓶
- 常備薬・救急医療品・お薬手帳の写し
- 衣類（下着や防寒着など）
- 雨具（カッパ）
- 生理用品
- 紙おむつ
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 乾電池
- ライター
- タオル・風呂敷
- ラップフィルム・缶切り・紙皿
- 貴重品（現金や印鑑、保険証や通帳の写しなど）

携帯電話やスマートフォンの充電の手段も考えておこう

家族構成により食料や日用品などの備えは異なります。必要な物は何か考えて備えましょう



### ● 地域ぐるみで防災

#### ● 本宮地域協働協議会の取り組み

震災後に、本宮地域15町内会を母体とした本宮地域協働協議会を結成。防災活動に力を入れるようになりました。震災のときに通信手段が困った経験から、情報伝達が重要と考え、各町内会の防災部長と小・中学校、高校に無線機を預け、地域内で連絡が取り合える体制を構築。これは市内でも先進的な取り組みだと思っています。ただし、実際に使いこなせないと意味がないので、4カ月に1回の通信訓練も欠かしません。

今は、本宮地域独自の防災マップを作成中。地域の医療やデイサービス施設、AEDと公衆電話の設置場所を掲載するなど、実際に住む人の視点で工夫しました。約8000世帯に配りますが、配って終わりではなく、住民の意見を聞いて更新していく予定です。これからは助け合えるよう、地域ぐるみで防災活動を続けていきます。



地域の祭りで住民の意識を高める様子



（左から）防災担当部長の長岡利明さん、会長の宮野勇夫さん、事務局長の佐々木功さん

もりおか復興支援センターは、市の委託を受け、内陸避難者の相談の受け付けやコミュニティー形成の支援を行っています。【問】同センター☎654-3521



- ① 崩れ落ちた校舎の壁
- ② 限られた通信手段で市内の情報を集めていた市災害対策本部の様子
- ③ 販売個数の制限を呼び掛けるドラッグストアの貼り紙
- ④ ガソリンなどの燃料を求める長蛇の列

## 3 情報が命綱になる

災害が市に及んだとき、さまざまな手段で情報が発信されます。自分で得た情報が避難の判断材料にもなります。いざというときのため、情報を得る手段を複数用意しておきましょう。

### ✉ 緊急速報メール

気象庁の配信する「緊急地震速報」と「特別警報」、市の配信する「災害・避難情報」などが、対象エリアの携帯大手事業者の携帯電話・スマートフォンに配信されます。

### 📺 ラジオ・テレビ

各局から災害の発生状況や避難などに関する情報が放送されます。

### 📣 防災無線（玉山地域のみ）

屋外に設置しているスピーカーで、防災情報を流します。

### 💻 インターネット

市公式ホームページとフェイスブック、ツイッターで避難情報や避難場所などの情報を発信します。

フェイスブックとツイッターのアカウントは、「@moriokashi」。フォローをお願いします

### ✉ いわてモバイルメール

県が運用している同メールシステムを活用し、市から情報をメール配信します。※利用には登録が必要です



動が生死に関わることもあります。

東日本大震災から7年経とうとする今、あらためて、あのときを振り返り、またいつ起こるか分からない災害への備えを万全にしましょう。

【問】危機管理防災課☎613-8386

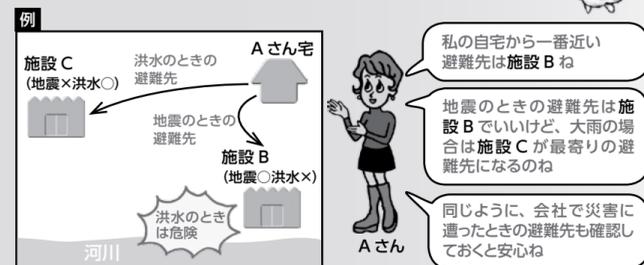
## そのとき、あなたはどこに逃げますか？

災害が発生したときの避難先は、「指定緊急避難場所」と「指定避難所」の2種類があります。自宅や勤務先などに近い各避難先を、市公式ホームページや昨年全戸配布したもりおか暮らしの便利帳（2017年度版）※で確認しておきましょう。【広報ID】1001008 ※同便利帳は、市役所別館6階の広聴広報課（☎613-8369）や各地区活動センターなどで入手できます

▶指定緊急避難場所  
差し迫った災害の危険から逃れるための場所。災害の種類（洪水、土砂災害、地震、大規模な火事、火山災害）ごとに指定します

▶指定避難所  
災害によって自宅に住めなくなった場合や、家に戻れなくなった人が一時的に避難生活を送るための施設  
※市が避難準備情報や勧告・指示を発令した際に開設します。災害規模や状況によって開設する施設を決めるため、全ての施設が一斉に開設されるとは限りません

家族間の安全確認の手段は前もって決めておきましょう！  
災害用伝言ダイヤル171や携帯各社の災害用伝言板やウェブサイトなども活用を



私の自宅から一番近い避難先は施設Bね  
地震のときの避難先は施設Bでいいけど、大雨の場合は施設Cが最寄りの避難先になるのね  
同じように、会社で災害に遭ったときの避難先も確認しておくって安心ね

## あの日、あの場所、あの人を思い、祈りを捧げる

### 東日本大震災7周年行事

盛岡広域8市町は3月11日(日)に、東日本大震災で亡くなった人々を追悼し、復興への誓いを新たにすることを開催します。あの日から間もなく7年。盛岡から被災地へ心を寄せ、思いを共にしませんか。当日どなたでも参加できます。

### 祈りの灯火2018 ～あなたに届けたい～

【時間】13時～19時  
【場所】盛岡城跡公園と桜山神社、東大通商店街（内丸）  
【内容】追悼と復興への誓いを込め、全国から届いた灯笼を点灯するほか、同公園内でステージイベントや復興屋台、復興マーケットを開催  
※灯笼点灯は16時50分から  
▶追悼ラン：遠野在住の江本英卓さんが、陸前高田市の「希望の灯り」を持ち、遠野～陸前高田～盛岡城跡公園までの180\*を走ります。同公園には16時半頃に到着する予定です



### 追悼式

【時間】14時半～15時  
【場所】県公会堂（内丸）  
【内容】盛岡広域首長の式辞と、同日開催される国主催追悼式（東京）の中継  
※震災発生時刻の14時46分に、市役所本庁舎と玉山総合事務所では追悼のサイレンを鳴らします

### ボランティア募集

会場準備や灯笼の点火などを手伝うボランティアを募集しています。詳しくは市公式ホームページをご覧ください。【広報ID】1018704

### 灯笼を作ってみませんか

【日時】3月4日(日)10時～15時  
【場所】イオンモール盛岡南（本宮七）  
【内容】上記行事で用いる灯笼を牛乳パックで作る  
【費用】無料。当日会場へどうぞ

### 被災地からの寄稿



陸前高田市 被災者支援室 吉田 幸喜さん

### まちの今

陸前高田市は、地震・津波により死者1557人・行方不明者203人、家屋は全世帯の約50%に当たる3802世帯が全壊の被害を受けました。電気や上下水道といったインフラや公共施設のほか、基幹産業である農・水産業も大きな被害を受けました。震災後、被災者の住まいの確保に重点を置いてきましたが、区画整備事業の長期化などから、7年経つ今でも710世帯・1750人が仮設住宅とみなし仮設住宅での暮らしを余儀なくされています。長引く仮設暮らしに不安な気持ちを持つ人もいるため、心や体調面のケアをしっかりとしていかなければと思います。また、仮設住宅の集約化に伴うコミュニティの再構築や住宅再建における新たなコミュニティの形成も課題となっており、市民生活の安定にはまだまだ時間が必要です。市庁舎をはじめ被災した多くの公共施設の復旧などさまざまな課題もありますが、かさ上げ地に整備された中心市街地に、市立図書館を併設した大型商業施設「アバッセたかた」が昨年オープン。仮設店舗で営業していたお店も移転するなどにぎわいも見せ始めています。また、市の農業の復興のシンボルであるオリジナルブランド米「たかたのゆめ」も広く認知されるようになってきました。復興にはまだまだ時間がかかりますが、引き続き皆さんの応援・支援をよろしく願います。

盛岡市は、23年度から継続して沿岸市町村に職員を派遣。7年間で延べ1869人の職員が復興支援業務などに当たってきました。これからも沿岸の復興を支えていきます。また、内陸避難者についても、引き続き見守りや生活相談など支援をしていきます。